

たぶん かきょうせいしゃ かいづくり すいしんじぎょうほうこくしょ
多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 いたくぎょうむめい がいよう
1 委託業務名・概要

(1) ぎょうむめい きょういくかんきょう い か し たたいけんがくしゅう こうりゅう
業務名 教育環境を活かした体験学習と交流

(2) がいよう じぎょう ようやく じぎょう もくてき
概要(事業の要約・事業の目的など)

ちいきしゃかい し きかい すく ぶらじるじんがっこうじどう せいと たいし ぶらじるじんがっこう きょうりよく
地域社会を知る機会が少ないブラジル人学校児童・生徒に対し、ブラジル人学校とNPOが協力して、
のうぎょう てーま しゃかいさんかかつどう きかい つく ぶるじえくと じっし しょく かん いしき こうじょう
農業をテーマにして社会参加活動の機会を創るプロジェクトを実施する。食に関する意識の向上を
はかる とも じゅうみん こうりゅう としょかん こうりゅうかん こうきょうしせつ りよう まな
図ると共に、住民やNPOと交流や、図書館や交流館といった公共施設の利用について学ぶことで
ちいきしゃかい さんか づくり
地域社会へ参加していくためのきっかけ作りをした。

2 じっしじぎょう
2 実施事業について

じっしじき
実施時期

(1) へいせい ねん がつ にち にち へいせい ねん がつ にち きん
(1) 平成19年7月1日(日)～平成20年2月29日(金)

じっしちいき
(2) 実施地域

とよたし にしかもぐんみよしちょう
豊田市、西加茂郡三好町

じぎょう ぐたいてきないよう
(3) 事業の具体的内容

のうぎょうたいけん じっし
・農業体験の実施

ひづけ 日付	ばしょ 場所	ないよう 内容	さんか にんずう 参加人数
がつ にち 7月26日	ほみだんちしゅうかいじょ 保見団地集会所	おりえんてーしょん やさい なまえしらべ オリエンテーションと野菜の名前調べ	めい 33名
がつ にち 7月27日	ねくたーしゅうへん ネットワーク周辺	はたけけんがく 畑見学	めい 31名
がつ にち 8月9日	ほみだんちしゅうかいじょ 保見団地集会所	やさい について まな 野菜について学ぶ	めい 38名
がつ にち 8月23日	ほみだんちしゅうかいじょ 保見団地集会所	えいよう かんがえ 栄養について考えよう	めい 31名
がつ にち 11月30日	みよしちょうないのうじょう 三好町内農場	のうさぎょうたいけん 農作業体験	めい 18名
がつ にち 2月22日	みよしちょうないのうじょう 三好町内農場	のうさぎょうたいけん 農作業体験	めい 14名

のさんか にんずう 165名
延べ参加人数

さいしょ おりえんてーしょん じっし ぶるじえくと けいかく もくてき せつめい おこなった とく はたけけんがく
最初にオリエンテーションを実施し、プロジェクトの計画や目的について説明を行った。特に、畑見学
さい ちゅういじこう かくにん 翌日 ねくたーしゅうへん はたけ みせて なつやさい しゅうかく
の際の注意事項を確認した。翌日、ネットワーク周辺の畑を見せていただいた。夏野菜はほぼ収穫
しおわって こ ひ ぐち やさい み きょうみぶか とよたし
し終わっていたが、子どもたちは日ごろ口にしている野菜を見つけて興味深そうであった。また、豊田市

多文化共生社会づくり推進事業成果報告会《エスコラネクター》

の特産品である梨の摘果作業を見せていただいた。学校近くの畑では出荷用の商品作物が作られており、子どもたちが手伝うことは難しいと判断した。そこで、近隣の畑の手伝いをしながら野菜について学ぶ予定を、NPO法人「地球を守る子どもたちの会」の所有する子ども農園での農作業体験に変更した。1回目は、畑の草取りと人参の収穫を行った。全員、畑の土を触るのは初めてで、楽しく作業ができた。収穫した人参は大切に持ち帰り、それぞれ、その日の夕食に使われたということであった。2回目はジャガイモの植え付けを行った。前回、草を取った場所に、畝を作り、ジャガイモを植える穴を掘り、種芋を埋めた。作業の後にはサツマイモをご馳走になった。暖かくなったら、草取りを兼ねて、芽が出ている様子を見に行く予定である。

教室では、食生活に関心を持たせるために、野菜のもつ栄養や機能を学んだ。日ごろの食事を振り返りながら、それぞれの食生活について考えた。栄養バランスの大切さや、ジュースの飲みすぎについて意識できた様子だった。

・農業を通した社会活動の実施

日付	場所	内容	参加人数
9月12日	豊田市図書館	図書館利用を知る	22名
10月18日	保見団地集会所	NPO法人「地球を守る子どもたちの会」代表の話	20名
11月7日	四郷町選果場	猿投官農センター四郷町選果場見学	32名
1月16日	保見交流館	新保見交流館見学	34名

の延べ参加人数 108名

図書館や交流館(公民館のような場所。保見交流館は市役所の支所機能を備えている)の利用経験がない子どもたちに対し、公共施設の利用の機会を作った。豊田市図書館では、利用方法について説明を受け、見学のあと、図書カードを作った。さっそく、ポルトガル語の本や、絵本を借りた。保見交流館でも本の貸し出しが可能で、調理実習を前に、子どもたちは料理の本を借りた。新保見交流館は「国際交流コーナー」が設けられ、外国人住民の利用増加を図っている。今後も上手に利用していきたい。

NPO法人「地球を守る子どもたちの会」の代表である須藤さんには、農業を通した社会活動についてお話をいただいた。農業を使わない田や畑で親と子が一緒に農作業をしながら自然に触れる機会を作ったり、環境問題についての講座を開いたりしているとのことであった。野菜の種を見て、何の野菜なのか当てるゲームもした。どの種も小さく、子どもたちは一様に驚いた様子だったが、楽しくお話を伺うことができ、農作業体験の動機付けになった。地球を守る子どもたちの会では、ネクターの近くに田んぼを持っているとのことで、今後、保護者も巻き込んだ交流へ発展していくよう働きかけたい。

また、JA とよた猿投選果場を見学させていただいた。日本の公立学校で社会見学に相当する内容を公立学校に通っていない外国人児童・生徒に実施できたことの意義は大きい。選果場では猿投特産の大

多文化共生社会づくり推進事業成果報告会《エスコラネクター》

あたらなし しゅつかじ き きな愛宕梨の出荷時期であった。自分の顔と同じくらいの大きさの梨に驚き、職員の方のお話を熱心に聞いた。

料理教室の実施

ひづけ 日付	ばしょ 場所	ないよう 内容	さんかになんずう 参加人数
がつ にち 1月23日	じょうすい すーぱー 浄水のスーパー	しゅん やさい ねだんしら 旬の野菜とその値段調べ	めい 25名
がつ にち 1月24日	ほけんこうりゅうかん 保見交流館	ちようりじっしゅうじゅんび くるーぶわけ めにゅーづくり 調理実習準備、グループ分けとメニュー作り	めい 25名
がつ にち 1月29日	ほけんだちしゅうかい 保見団地集会所	こうりゅうかいしやうたいじようづくり 交流会招待状作り	めい 24名
がつ にち 2月 6日	ほけんだちしゅうかい 保見団地集会所	れしび さくせい レシピの作成	めい 23名
がつ にち 2月13日	ほけんだちしゅうかい 保見団地集会所	こうりゅうかい はっぴょうじゅんび 交流会での発表準備	めい 21名
がつ にち 2月15日	じょうすい すーぱー 浄水のスーパー	ちようりじっしゅう かいもの 調理実習のための買い物	めい 23名
がつ にち 2月17日	ほけんこうりゅうかん 保見交流館	ちようりじっしゅう ほごしゃ まねいて こうりゅうかい 調理実習、保護者を招いての交流会	めい 55名

の にんずう 延べ人数 196名

りようり つくる 料理をすることにより、しょく たいせつさ まなび やさい 食の大切さを学び、野菜のおいしさを知った。しつた ししょく か こうりゅうかい ほごしゃ 試食を兼ねた交流会に保護者を招待し、ぶるじえくと はっぴょうかい おこなった プロジェクトの発表会を行った。

こ 子どもたちはまずスーパーで旬の野菜とその値段を調べ、きせつ やさいつか めにゅー かんがえた かく 季節の野菜を使ったメニューを考えた。各グループそれぞれ2種類のメニューをたて、ぜんたい ばらんす かんがえたうえ れしび さくせい 全体のバランスを考えた上で、レシピを作成した。

ほごしゃあて しょうたいじよう つくり せつきよくてき さんか うながした このプロジェクトで学んだことを日本語とポルトガル語で発表するための準備も平行して行った。

か もの だんかい じしゅせい も かか 買い物の段階から自主性を持たせて関わらせてきたことで、ちようりじっしゅう にちようび けっせき 調理実習は日曜日であったが、欠席する子どもはいなかった。ひごろのお手伝いの成果もあるのか、れたすちゃはん ぱるみットぱい なたの グラタンなどが手際よく作られた。ごご こうりゅうかい りようしんども さんか かにい あおく こ 子どもたちが作った料理を話題に交流することができた。こ 子どもたちの発表を熱心に聞いていただけた。

3 実施結果（実施の効果等、数値を入れるなど具体的に）

- のうぎようたいけん とおし やさい きようみ もたせ た もの たい いしきづけ こ 農業体験を通し、野菜について興味を持たせ、食べ物に対する意識付けができた。子どもたちは野菜好きになり、ちゅうしょく めにゅー りくえすと できる 昼食のメニューにもリクエストが出るほどである。
- ささまざまな公共施設を利用したことで、こ 子どもたちの社会を広げることができた。こうきょうまな いて学ぶ機会にもなった。
- にほん こうりつがっこう おな ぶるくらむ しゃかいけんがく ちようりじっしゅう ぶらじるじんがっこう ていきよう 日本の公立学校と同じようなプログラム（社会見学、調理実習）をブラジル人学校でも提供することとが、ぎむきょういく はんがい たい きょういくかつどう こうりゅうかん しょいん 地域のの人たちにブラジル人学校や、そこで学ぶ子どもたちの存在を知ってもらうことができた。

- ・ 数値的な効果は、これと提示できないものの、子どもたちが野菜を見る目は明らかに変わっており、会話の中にも食を意識した発言が増えている。調理実習の後の交流会では、ジュースや炭酸飲料のリクエストは出なかった。

4 事業の特質（工夫した点などを事例を挙げて具体的に）

- ・ 自分たちで調べるといふ姿勢を大切に。実習や体験が多いことから、子どもたちの興味が削がれることなく自発的な姿勢を持続させることができた。
- ・ 交流館や集会所を積極的に使い、地域社会へとけ込めるよう工夫した。また、1人でも図書館などが利用できるように、利用方法や、決まりについて、きちんと伝える時間を沢山割いた。
- ・ 何かを説明するときには、絵や写真を使い理解しやすくなるよう工夫した。資料はポルトガル語、日本語を併記し、学んだことは自分なりにまとめて記載させるようにした。

5 今後の課題

- ・ 地域の理解が重要となる。地域社会に対する貢献活動を意識した活動を行ったものの、まだ地域の日本人とは距離を感じる人が多い。日本人も巻き込めるような活動を継続して行う必要がある。
- ・ 活動を継続して行うには、ブラジル人学校やNPOだけではなく、行政機関や自治区などの協力も必要となる。今回のプロジェクトで、ブラジル人学校の存在そのものが知られていない実態がわかった。ブラジル人学校や支援するNPOへの資金援助も重要であるが、日本人への意識啓発を継続して行ってもらうことで、活動がより盛んになると思われる。

6 その他参考事項

三井物産株式会社(TSE:8031)は在日ブラジル人の教育問題を重要な社会的課題と考え、2005年度から在日ブラジル人児童への教育支援プログラムAction for a Better Internationalを開始したが、本校は2007年度の支給先の一つに選ばれた。教育関連品として、送迎用の車やコンピューターを購入した。